I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 35
Sarah Vaughan【サラ・ヴォーン】
～“ ザ・シンガー ”と称された名ジャズ・ヴォーカリスト～

Photo from "How High The Moon" / Sarah Vaughan (Membran)

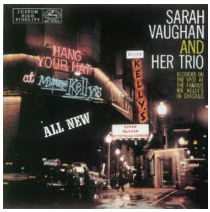
Profile

1924 年 3 月 27 日、米国ニュージャージー州ニューアーク生まれ。本名は Sarah Lois Vaughan。大工でギターも弾く父親と教会でピアノを弾いて歌っていた母親のもとで育ち、10 代前半の頃からオルガンを弾き歌い始める。18 歳の時にニューヨーク・ハーレムのアポロ劇場で行われたアマチュア・ナイトで優勝したのを機に、ビリー・エクスタインにスカウトされ、43 年にアール・ハインズ楽団の専属歌手 & ピアニストとしてプロ・デビュー。翌 44 年エクスタイン楽団で初レコーディング。45 年にソロ歌手として独立。47 年 ~51 年まで『ダウンビート』誌、48 年 ~53 年まで『メトロノーム』誌の女性歌手部門で 1 位に輝いた。49~53 年 CBS、54~59 年マーキュリー、60~63 年ルーレット・レーベル、63~67 年再びマーキュリーに在籍。1965 年録音のアルバム『ラヴァーズ・コンチェルト』が大ヒットを記録し、その後 CM や TV ドラマで使用された。その後、一時不遇の時を過ごすが、78 年にパブロと契約し完全復活を果たす。以後亡くなるまで歌い続け活躍した。1969 年 9 月、1970 年 12 月、1973 年 9 月の来日をはじめ、80 年代にも度々来日を果たす。その大胆且つ豪快な歌声と抜群のテクニック、独特のスイング感で最高のジャズ歌手のひとりと認知され、多くのファンを魅了し、数多くの名演＆名盤を残す。ビリー・ホリデイの後継者と呼ばれ、エラ・フィッツジェラルド、カーメン・マクレーと共に女性ジャズ・ヴォーカルの御三家と称された。また、ジャズ･ヴォーカリストの枠を超越した“ ザ･シンガー ”と賞賛され、ハリウッドの「ウォーク･オブ・フェイム」にも名前が刻まれている。来日を控えた 1990 年 4 月 3 日、癌のためロサンゼルスで死去。享年 66 歳。

SV's Great Album

ここに紹介した作品以外にも、『ウィズ・クリフォード・ブラウン』『ラヴァーズ・コンチェルト』『ライヴ・イン・ジャパン』『アイ・ラヴ・ブラジル』等、多くの名盤を残している。

サラの歌声がすぐそこに…
1957年のライヴ音源を収録



アット・ミスター・ケリーズ
サラ・ヴォーン
（ユニバーサル・ミュージック : UCCU-6138）

サラ・ヴォーン (vo)、ジミー・ジョーンズ (p)、リチャード・デイヴィス (b)、ロイ・ヘインズ (ds)

1. 九月の雨 2. 柳は泣いている 3. ジャスト・ワン・オブ・ゾーズ・シングス（他、全 20 曲）

多くの名演を生み出したシカゴのクラブ「ミスター・ケリーズ」での臨場感溢れる 1957 年のライヴ音源。司会の声にサラの笑い声、観衆のざわめき、そして、最高のヴォーカル。ジャズが活気に満ち溢れていた時代のアット・ホームな会場の様子が目に浮かぶ。お気に入りはエラのお株を奪う様な見事なスキャットを披露する「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」。茶目っ気たっぷりのサラの魅力も際立つ最高のライヴ・アルバム。

豪華メンバーも集結！サラが歌うレノン＝マッカートニー作品

ソングス・オブ・ザ・ビートルズ
サラ・ヴォーン
（ワーナー・ミュージック : WPCR-27450）

サラ・ヴォーン (vo)、デヴィッド・ペイチ、マイク・ラング (kb), リー・リトナー、ディーン・パークス (g)、他

1. ゲット・バック 2. アンド・アイ・ラヴ・ハー 3. エリナー・リグビー 4. フール・オン・ザ・ヒル 5. ユー・ネヴァー・ギヴ・ミー・ユア・マネー（他、全 13 曲）

ビートルズの曲を彼等以上のクオリティでカヴァーするのは至難の業だが、サラの場合は少しばかり違う。初っ端の「ゲット・バック」から、ファンキー＆パワフルな歌声が炸裂。渋い選曲の「アイ・ウォント・ユー」にハーモニカやコーラスも光る「エリナー・リグビー」、ボサノヴァ調の「サムシング」も秀逸で、「イエスタデイ」「ヘイ・ジュード」と続くサラのスローバラードは感動の一言。TOTO のメンバーも参加。1981 年録音。

サラ円熟期の名盤
初のセルフ・プロデュース作品

枯葉
サラ・ヴォーン
（ユニバーサル・ミュージック : UCCO-9641）

サラ・ヴォーン (vo)、ジョー・パス (g)、ローランド・ハナ (p)、アンディ・シンプキンス (b)、ハロルド・ジョーンズ (ds)

1. 時さえ忘れて 2. ザッツ・オール 3. 枯葉 4. ラヴ・ダンス 5. ジ・アイランド 6. シーズンズ 7. イン・ラヴ・イン・ヴェイン（他、全 8 曲）

アルバムの原題は『Crazy & Mixed Up』だが、それまでの曲のイメージとは全く異なる縦横無尽な高速スキャットによる「枯葉」があまりにも有名で、邦題も『枯葉』となった 1982 年録音の名盤。イヴァン・リンス作の「ラヴ・ダンス」「ジ・アイランド」を含む、全 8 曲収録。ローランド・ハナのピアノとジョー・パスのギターの好演も光る。ジャケットも魅力的で、女王の貫禄を見せつけた一枚。プロデュースはノーマン・グランツ。

サラ・ヴォーンと美空ひばり

1989 年にこの世を去った後も、多くのファンに愛され続けている美空ひばり。天才少女と呼ばれ脚光を浴びて以来、最期まで歌い続けた日本が誇る不世出の天才歌手だ。サラと美空ひばりを比較することには多少無理があるかもしれないが、ほぼ同じ時代を生き抜いた２人の歌心と底知れぬパワー、感情豊かな歌唱、ジャンルに拘らず歌い続けた姿勢。そして、後期にかけて見事復活を果たし、死ぬ間際まで歌で人々に感動を与え続け、生涯一歌手を貫いた輝かしい存在感はどこか似ている様だ。今の時代なら共演もあり得たかも知れない。

サラ・ヴォーンの男性遍歴

サラは生涯 4 度の結婚歴があったと言われている。1 番目の夫は元々トランペッターだったが、後にサラのマネージャーになったジョージ・トレッドウェル（1947 年結婚）。2 番目はドラマーだったグラセラ・オリファント（1960 年代に結婚）。3 番目はマネージャーだった C・B・アトキンス（1970 年代に結婚）。そして、4 番目はトランペッターのウェイモン・リード（1978 年結婚）。酒もタバコも豪快に楽しんだと言われるサラ。その歌声と同様にプライベートもダイナミックでパワフルだったことが想像されるが、サラの人生そのものがジャズの様だ。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.8

~ Dear Old Stockholm【ディア・オールド・ストックホルム】~

この曲はスウェーデン民謡で、原題は「Ack Värmeland, Du Sköna」。1951 年にスタン・ゲッツ（ts）が取り上げて以来、ジャズのスタンダード・ナンバーとして親しまれ、多くのアーティストに取り上げられ続けている。初期のマイルス・デイヴィスの演奏も有名だが、ポール・チェンバース（b）の名盤『ベース・オン・トップ』（1957 年録音）で聴けるケニー・バレル（g）、ハンク・ジョーンズ（p）、アート・テイラー（ds）との名演もお薦めです。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

スタン・ゲッツ『ザ・サウンド』
マイルス・デイヴィス『マイルス・デイヴィス・オールスターズ Vol.1』
ユタ・ヒップ『ヒッコリー・ハウスのユタ・ヒップ VOL.1』
ポール・チェンバース『ベース・オン・トップ』
カレル・ボエリー・トリオ『ディア・オールド・ストックホルム』